

シャネル コスチュームジュエリー

1900年代の初期から存在していたシャネルのコスチュームジュエリー（メッキのアクセサリ）は現代でも強い人気があり、古いモデルはヴィンテージアクセサリとして高い評価を得るようになりました。

コスチュームジュエリーは宝石や貴金属を使った高価なファインジュエリーとは違い、厚メッキとフェイクパールや模造宝石などから作られています。ファインジュエリーより安価でデザインの幅も広がったため、一般層の間で大人気になりました。

特に日本ではバブル期に流行ったアイテムで、買取店への持ち込みもかなり多いイメージです。

真贋の際に刻印を撮っていただいていると思いますが、年代やラインによって様々な刻印が入れられていますので、こちらについて解説します。



刻印について

①1954年頃～1985年頃

アクセサリに刻印が入るようになったのは1954年頃、第二次世界大戦の影響が減ってきた頃と言われています。ほとんどのアクセサリには刻印は入っていませんでしたが、一部アイテムに「CHANEL」などシンプルな刻印が入っていました。

1971年には著作権表示の「©」のマークや、登録商標の「®」マークの刻印が入りました。また「MADE IN FRANCE」の刻印も見られます。1980年代になると、楕円形のプレートタイプも登場します。



1980年～

② 1986年頃～1994年頃

1986年にヴィクトワール・ドゥ・カステリーヌが、シャネルのジュエリー部門のデザイナーに就任し、彼女のデザインのアイテムには数字刻印が入るようになりました。



1990年



1993年

刻印の年代

21	1986年
22	1987年
23	1988年
24	1989年
25	1990年
26	1991年
27	1992年
28	1993年
29	1994年

※この年代で数字刻印のないアイテムは、ヴィクトワール・ドゥ・カステリーヌ以外のデザインのアイテムになります。

③ 1993年頃～現在

この年代からは、シーズンプレートと呼ばれている年代を表す数字と、シーズンを表すアルファベットの刻印が入ったプレートが見られます。2010年からは数字の前にもアルファベットが入るようになりましたが、その法則は分かっておりません。



1993年秋コレクション



2025年スプリングコレクション

シーズン刻印の意味

V	定番モデル
P (printemps)	スプリングコレクション (2月～3月)
T (transition)	春夏コレクション
S (summer)	ハイサマーコレクション (4月～6月)
A (autumn)	秋コレクション (7月～8月)
B (fall/winter)	秋冬コレクション (9月～10月)
K (fall/winter)	秋冬コレクション (11月～12月)
W (winter)	冬コレクション
C (cruise)	クルーズコレクション (12月～1月)

2000年代にはイタリア製のアイテムも登場し、「MADE IN ITALY」の刻印も見られます。

定番・人気なデザイン

① グリポア

ヴィンテージアクセサリーの代表ともいえるラインで、溶かしたガラスに独特の着色を施したものです。現在は販売しておらず、また当時もパリ本店など限られた店舗でのみ販売されていた希少価値の高いアイテムです。



② 溶岩

1980年代頃から発売されていた、溶岩のようにごつごつした見た目のラインです。



③ 奇抜なデザイン

ヴィンテージアイテムには、現行にはないようなデザインのものもあり注目を集めています。



真 贋 ポ イ ン ト

コスチュームジュエリーの真贋の重要なポイントは、「刻印」になります。

1950年代～2010年代前半の品物は、年代・アイテムによって文字の形や彫られ方が様々です。共通して刻印がつぶれてしまっているものは基準外の可能性が高いものになります。また、現行品などの刻印がレーザーで彫られている品物は、基準外品のクオリティも非常に高いです。

POINT

「そのものの販売時期が刻印と一致しているのか」

「メッキがざらついておらず均一であるか」

「レーザーでの彫られ方が一致しているか」

「ストーンなどの装飾の付き方が適切かどうか」

正規品と比較することが大切です。

気になること・わからないことありましたら
お気軽にブランド室までお問い合わせください。